

SNAPSHOT

Long-lost antcestor

アリえない形態の祖先

Nature Vol.455 (275) / 18 September 2008

この淡黄色の目のない奇怪な生物は、生物学者 E. O. Wilson をして「火星からきたアリ」といわしめた。ブラジルのアマゾン川流域に生息する *Martialis heureka* は、アリの進化の初期にその系統樹から分岐した新しい亜科の創始者である。

その発見者であり、テキサス大学(米国テキサス州オースティン) 統合生物学部の大学院生である Christian Rabeling は、「このアリは、祖先の形態学的特徴の一部を保持する残存種である可能性があります」と話す。

アリはスズメバチから進化してきたため、現存する祖先種はどれもス



ズメバチに似ており、1960年代に Wilson らが発見した白亜紀のアリの化石と同様の形態をしていると長らく信じられてきた。そのため、これらとは似ても似つかない形態をした *Martialis* は、昆虫学者らに衝撃を与えた。遺伝分析の結果も、これがアリの既知の分類に当てはまらないことを裏づけていた (C. Rabeling *et al. Proc. Natl Acad. Sci. USA* doi:10.1073/pnas.0806187105;2008)。このアリは、長く精巧な口器をもってい

る。おそらく、柔らかい無脊椎動物をムシャムシャと食べているのだろう。また、そのたくましい前足と比較すると、後ろの2対の足は細く弱々しい(写真の標本では、ほかの3本の足はDNA分析のために切り取られている)。アリの専門家であり、カリフォルニア科学アカデミー(サンフランシスコ)の昆虫担当の学芸員である Brian Fisher は、「歩くことさえできないように見えます」という。 ■

Amber Dance